

2010.3.31 文責：桑江良明

日本技術士会 原子力・放射線部会
日本原子力学会 共催

第1回「技術士の集い」概要報告

○日時：平成 22 年 3 月 27 日（土）12：00～13：00

○場所：茨城大学水戸キャンパス（2010 年原子力学会春の年会会場）
共通教育棟 2 号館 24 講義室

○参加者：計 23 名

（工藤和彦氏—九州大学特任教授、原子力学会副会長—、林克己—一部会長—ほか）

○配布資料：

①「原子力・放射線部門の技術士試験の状況と対策」

②「技術士制度活用WGの活動について」（ppt 版）

③ 同上（word 版）

④ 会報第 7 号巻頭言（抜粋）

○内容：

1. 林部会長開会挨拶

技術士行事は東京が多いので、他地区の方は参加しにくかった。そこで開催地が全国をまわる原子力学会の年会・大会に合わせて「技術士の集い」を今回から実施する。



工藤和彦 氏

2. 「技術士の集い開催にあたって」工藤和彦氏

技術士による自由な意見交換が期待できることから、今後とも継続開催をお願いしたい。

3. 「原子力・放射線部門の技術士試験の状況と対策」中野智仁 技術士

以下の内容で、技術士制度および試験全般について説明がなされた。

(1) 技術士とは（技術士法の定義、技術士の数と技術部門 等）

(2) 技術士になるには（一次試験、二次試験の科目、配点、出題傾向、対策 等）

(3) 平成 22 年度の試験スケジュール

特に (1) では、中野技術士独自の見解として、技術士に求められる「のう力」として、以下の 3 つの「のう力」が示された。

- ・脳力：問題発掘力（問題点・課題は何かを見出す能力）
- ・脳力：問題解決手段策定力（問題点・課題を解決する手段を検討する能力）
- ・能力：問題解決実行力（問題点・課題を解決する実行力）

さらに、(2) では、第二次試験受験の心構えとして、以下の 4 点が強調された。

- ・試験は受験申込書作成から始まっている
- ・単なる知識の詰め込みでは合格は困難である
- ・体系的な基本知識は必須である
- ・第三者に技術を説明できてこそ技術士である

中野技術士の講演内容は受験者を対象としたものだが、既技術士に対しても「技術士に求められる『のう力』」を再認識させるに足るものであった。

4. 「技術士制度活用WGの活動について」 桶谷浩一郎 技術士

原子力法制度と許認可制度の在り方に関する東大原子力法制研究会の検討と連動し、平成 21 年 1 月に技術士会原子力・放射線部会に設置した技術士制度活用WGの成果概要について以下のとおり報告された。

(1) 工事計画認可申請書の構造強度計算書等を技術士が審査することを検討条件とし、「審査の原則」を定義するとともに「審査をする人が保有すべき能力要件」「審査するための制度」を検討した。

(2) 審査の原則として「審査の合理性」「審査の実行性」「審査の透明性」を設定し、審査する人の要件と審査制度の要件の検討結果にもとづき、審査体制のケーススタディを実施するとともに制度実現のための方策（案）を検討整理した。

(3) 以上の結果、原子力・放射線部門技術士資格（他部門の技術士は原子力・放射線部門の一次試験合格）を保有し、審査に必要な特定の技術知識を有すると認められた人（「認定技術士（仮称）」）が審査することの有効性を確認した。

以上の検討結果は、東大原子力法制研究会および電気事業連合会関係者への説明がなされ、今後の合理的な許認可制度の実現に向けた検討に資することとなる。

桶谷技術士の報告は、原子力分野における技術士活用についての検討が具体的に進捗していることを参加者に印象付けるものであった。

以上



技術士の集い風景